

# 帝国の建設者

Les Bâtisseurs d'empire ou le Schmürz

アンサンブル室町  
Ensemble Muromachi  
和楽器 + 古楽器

演奏会によせて

演劇/音楽

ジャンルの異なる芸術表現の間に創造的な関係を作り出すことをアンサンブル室町は目指しています。

今回の公演は、作家ボリス・ヴィアン(1920-1959)の『帝国の建設者』と、この作品から構想された久木山直氏の楽曲の対話です。

『帝国の建設者』の筋は、以下のとおりです。

40代のブルジョワ夫婦、その娘ゼノビ、女中のクリュシュは、2つの要素によって繰り返し混乱させられます。ひとつは得体の知れない「音」で、その音が聞こえてくると彼らは不安のあまり大急ぎで引越すこととなります。もうひとつは、全身包帯に包まれたシュミュルツで、このスケープゴートのような男が様々な反応、時には、極端とさえ言える反応を引き起こします。

音楽は、登場人物それぞれの性格の特徴、状況の奇妙さや滑稽さ、そのほか心や言葉を越えて知覚される多くのことを強調しています。

日仏のコラボレーション、

このさまざまなアートの結びつきの存在理由は、観客のみならずによって与えられます。さらなる新しい展望、冒険心、人間性、寛大な心、想像力をみなさまにお伝えできればと思います。

アンサンブル室町代表

ローラン・テシュネ

<http://musique-art-vie.seesaa.net/>

Avant-propos

Théâtre / Musique

Aller vers une relation créative entre différentes formes d'expression artistiques, tel est l'un des objectifs de l'Ensemble Muromachi

Ce nouveau spectacle est un dialogue entre la pièce «Les bâtisseurs d'empire» de l'écrivain Boris Vian (1920-1959)

et l'oeuvre que le compositeur Naoshi Kukiyama (né en 1958) a conçu pour elle.

L'argument en est le suivant :

un couple bourgeois quadragénaire, leur fille Zénobie, leur bonne Cruche, un Voisin,

sont perturbés de manière cyclique par deux éléments : le Bruit, si inquiétant qu'il les amène chaque fois à déménager de manière précipitée,

et le "Schmurtz", sorte d'existence humaine toute enveloppée de bandages et qui suscite des réactions diverses et parfois même extrêmes.

La Musique, elle, vient souligner les traits de caractère de chacun des personnages, l'étrangeté et le burlesque des situations

et bien d'autres choses encore perceptibles par-delà les âmes et au-delà des mots.

Collaboration franco-japonaise,

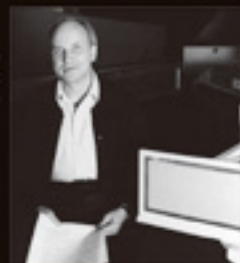
cette réunion des arts se donne aussi pour but de communiquer davantage son ouverture, son esprit d'aventure, son humanisme, sa générosité et son sens visionnaire

au public qui lui donne sa raison d'être :

Laurent Teycheney

Directeur de l'Ensemble Muromachi

<http://musique-art-vie.seesaa.net/>



アンサンブル室町 Ensemble Muromachi

アンサンブル室町は、北とびあ音楽祭(東京)をきっかけに、バロック時代の古楽器と伝統的和楽器の演奏家、舞踏家、俳優、そして広く開かれた芸術的対話に関心をもち人々が集まって結成された。これまでに、「重臣秀吉の夢」(2007、北とびあつつじホール)、「郷愁の夢」(2008、サントリーホール)、第1回「ワークショップ/コンサート」(2009、東京藝術大学)、「ポール・クロードルの百扇帖1」(2010、日本大学カザルスホール)、「ポール・クロードルの百扇帖2」(2011、東京文化会館)、「元素」(2011、サントリーホールブルーローズ)、「塔・元素—塔に見る夢、未来に捧げる祈り—」(2012、東京江戸博物館)、第1回レクチャーコンサート(2012)、「源氏物語」(2012、紀尾井ホール)など数々の公演を行い、多くの作品(権代敦彦、酒井健治、Edith Lejet、成田和子、山本和智、末吉保雄、Alain Moene、山下忠、Aurelien Dumont、増本俊彦、福田忠子、朝守将平、阿部俊祐、他)を初演してきた。また、今後は楽譜出版、録音、国際作曲コンクールの開催などのプロジェクトも予定されている。



スタッフ・出演者



岩切 正一郎  
(翻訳)



石丸 さち子  
(演出/母アンナ)



久木山 直  
(音楽)



鷹羽 弘晃  
(指揮)



萩原 将憲  
(父レオン)



清水 那保  
(娘ゼノビ)



中山 マリ  
(女中クリュシュ)



伊藤 靖浩  
(隣人ガレ)



立花 五郎  
(シュミュルツ)

アンサンブル室町

和楽器

篠笛

尺八

三味線

笙

琵琶

箏

打楽器

あかる潤  
黒田静鏡  
守啓伊子  
中村英子  
久保田晶子  
日原暢子  
小川実加子

古楽器

リコーダー

バロックバイオリン

バロックチェロ

バロックギター

チェンバロ

打楽器

野崎剛右  
須賀麻里江  
山澤慧  
山田岳  
流尾真衣  
石若職



北沢タウンホール  
東京都世田谷区北沢2-8-18 TEL:03-5478-8006  
小田原線・京王井の頭線北沢駅 改札口から徒歩約5分

マネジメント

武智音楽事務所

FRANC-PARLER

Theatre Polyphonic

PolyArts

Image of a musical staff with notes.